

OUCH!

今月のトピック...

- ・はじめに
- ・リスク
- ・子供に教える

子供に教えるインターネットセキュリティ

はじめに

子供がオンライン上で他人と接する機会はたくさんあります。新しいソーシャルメディアのサービスは、庭の雑草の成長と同じくらい早いスピードで立ち上がり、オンライン接続するアプリやゲームは増える一方です。また、多くの教育機関は、GOOGLE DRIVEのようなサービスを使い始めています。中にはオンライン上で作業を行い、オンライン上で宿題などを提出することを義務付けているところもあり、今の子供は「オンライン接続された状態」で育っていると言えます。これは多くの利益を生みますが、同時に多くのリスクを生みます。このニュースレターでは、子供に対する3つのリスクとオンライン上で自分自身の安全を保つためにできることを解説します。

ゲストエディター

ボブ・ルーティス氏は、ベライゾン社でセキュリティデータサイエンティストとして勤務しており、2015 Data Breach Investigations Report の著者で、4人の子供を持つ父親でもあります。ルーティス氏は、様々な Fortune 100企業にて成功したセキュリティ啓発プログラムを開発してきました。また、積極的にツイッター (@hrbrmstr) で配信も行っています。

リスク

- 1. 行動・振る舞い**：オンライン上のコミュニティや仮想世界で活動するとき、子供は現実世界では絶対に取らない行動を取ることがあります。実体がないということは、子供に強い匿名性を与えてしまうことにもつながります。その結果として、他の子供を傷つけるような言動や行動を取ったりする誘惑を受けることになるのです。これは、「サイバーいじめ (CYBERBULLYING)」や「GRIEFING (ゲーム内で相手を怒らせたりする行為)」と呼ばれます。また、逆に自分の子供がオンライン上でいじめの被害者になることもあるでしょう。
- 2. 連絡・交流**：常にオンライン接続された状態にあるということは、子供が常に他人と交流しており、連絡できる状態にあるということです。例えば、メールや、オンライン上に設けられたコミュニティでの交流など、仮想世界の中で遊んでいる状態などがあるでしょう。物理的に存在することを確認できないことから、相手が自分を詐称していたり、子供に対する配慮を忘れがちになってしまう傾向があります。この点を悪用して悪意ある人は、デジタルな世界を徘徊しており、時には子供だと偽って、被害者となり得る人たちと良好な関係を築こうとします。
- 3. コンテンツ**：オンライン上で動画や、音声、画像、そしてテキストメッセージを取り込んだり投稿する方法はたくさんあります。子供は、友達より「多く投稿」したいという誘惑があるため、実害があることを知らずに、自分や家族の写真といった情報を共有しすぎてしまうおそれもあります。つまり、なりすまし犯罪やマルウェア感染の影響を子供は知らないために、個人情報を求める質問に自ら意図せず答えてしまっていたり、悪意あるリンクをクリックしてしまうこともあるのです。私たちは、オンライン上に投稿あるいは共有したものを取り返すための「や

子供に教えるインターネットセキュリティ

り直す」ができない時代で生活しています。子供は、KIK、INSTAGRAMやSNAPCHATなどで投稿されたものは、いつか消えるものだと考えているかもしれませんが、これらの投稿は自分自身もしくは家族の誰かにいつの日か悪影響を及ぼすおそれがあるということです。

子供に教える

子供を守るために実行できる方法とは、子供と話すことです。子供がインターネット上で何をやっているのかを把握し、今あるリスクや自身を守るためにできることについて話をしてください。

1. **自宅での安全**：どこでもインターネットに接続可能になったとはいえ、安全な使い方の第一歩は自宅から始まります。子供と話をすることも大切ですが、子供の方から話をするようになるには、小さいころからスタートする方がよいでしょう。インターネットセキュリティについて定期的に話をし、その中で実害があった事件などについても話をしあげるようにしましょう。子供がインターネット上で何を

しているのか分からなければ、そのことを子供に聞いてみてください。何も知らない親を演じて、子供に最新のテクノロジーについて尋ね、使い方を教えてもらうのも良い方法です。子供は人に何かを教えるのは好きなので、色んな小細工をして子供に話をさせるよりは、よほど簡単に心を開いてくるものです。例えば、INSTAGRAMを使っている場合、INSTAGRAMの使い方について聞いてみるというのがあります。アカウントの作成から見せてもらい、手順を一から説明してもらうことで、子供が何をしているのかを理解しているだけでなく、子供が話をしやすい環境を用意していることになるのです。さらに、インターネットに接続している間は可能な限り、家の中でみんながいる場所にするようにし、時間についても制限を設けるようにしてください。パソコンを家の中でもみんなが集まる場所に置くことで、子供が危険な行動を行う確率を減らすことができます。モバイル機器の充電についても特定の場所で行うことにし、寝る前はそこに置くというルールを設けることも検討してみてください。

2. **他人との安全**：ここまでは、子供が自宅でネットワークを利用するときのお話でしたが、子供が自宅から離れている時の方が、リスクに晒される危険が高まります。サイバー空間やインターネット上におけるルールについては、自宅かそうでないかといった物理的な位置には左右されず、どこでも適用されることを説明してください。これらのルールについては、子供を保護する立場の方にも話をしておくといいでしょう。モバイル機器を持っている場合、使用履歴（時間および回線利用時間、データ通信容量など）を確認して、ルールがある自宅を離れて自由にネットワーク上で活動できることを逆手にとって利用していないかを確認してください。ここまでのことを行っても、子供の悪行をすべて止めることはできませんが、モバイル機器で何かをしようとした時に、親の思いやりある言葉を思い浮かべることで踏みとどまってくれることを期待しましょう。



子供をインターネットに存在するさまざまな脅威から守るための鍵は、危険性について教育し、自分から子供に対して一方的に話をするだけでなく、子供から自分に話をしてもらうようにすることです。

子供に教えるインターネットセキュリティ

3. **みんなでカバーする安全**：この問題に関しては、決して一人で悩む必要はありません。他の親、保護者、兄弟、先生や友人とコミュニケーションを取り、危険だと思われる行動に対して、目を配ってもらうようにしましょう。自分の周りのコミュニティにおいては、危険な道を歩みそうな子供に対して、ポジティブなコミュニケーションを取るようしてください。

最後に、子供が何か過ちを犯してしまった場合、お仕置きをするのではなく、それぞれを何か得られる経験として扱ってみてください。毎回、「なぜ」そういう話をしているかを説明し、見えない危険から守ろうとしていることも説明してあげてください。インターネット上で何か危険を察知し、安全じゃないかもしれないと思った時は、話を聞いてあげるスタンスであることも説明し、スクリーンショットを共有してもらうのもいいかもしれません。また、何か過ちを犯してしまった時でも、気軽に話ができる雰囲気を作ってあげてください。デジタルな世界において、子供の安全を守る一番の近道は、子供とのコミュニケーションをオープンにしておくことです。

詳しくは

毎月発行のセキュリティウェアネスニュースレター「OUCH!」をご活用ください。また、OUCH!のアーカイブで過去のトピックも参照できます。詳しくは、SANSセキュリティウェアネスソリューションのサイトをご覧ください。<http://www.securingthehuman.org>

日本語版翻訳チーム

日本語版翻訳-NRIセキュアテクノロジーズ株式会社

NRI セキュアテクノロジーズは、国内最大の情報セキュリティ専門企業です。マネージドセキュリティサービス、コンサルティング、ソフトウェアソリューションの提供を通じて、情報セキュリティのあらゆる視点からお客をサポートします。

<http://www.nri-secure.co.jp>

リソース

Cyber Smart Program: <http://www.cybersmart.gov.au/Parents.aspx>

OnGuardOnline: <http://www.onguardonline.gov/topics/protect-kids-online>

StaySafeOnline: <https://www.staysafeonline.org/stay-safe-online/for-parents/raising-digital-citizens>

子供の安全について:

<http://www.rsaconference.com/media/into-the-woods-protecting-our-youth-from-the-wolves-of-cyberspace>

OUCH!はSANS Securing The Human プログラムによって発行され、[Creative Commons BY-NC-ND 4.0 license](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/)に従って配布されます。このニュースレターを再配布し、もしくは啓発資料としてご利用いただけますが、コンテンツの改変は認められません。翻訳その他に関しては、ouch@securingthehuman.org までお問合せください

Editorial Board: Bill Wyman, Walt Scrivens, Phil Hoffman, Bob Rudis

Translated By: 内山 貴之, 時田 剛



securingthehuman.org/blog



[/secrethehuman](https://www.facebook.com/secrethehuman)



[@secrethehuman](https://twitter.com/secrethehuman)



[securingthehuman.org/gplus](https://plus.google.com/securingthehuman.org)